

## 1. ルツの買い戻し 1-12節

### 1「門」とは？

→イスラエルの町は城壁に囲まれた町が多く、城壁の門を通らなければ町に入ることができなかった。門の前はかなりの広場になって人々が集まる場所で、商売が行われたり（Ⅱ列王記7:1,18）、公的相談や会議（創世記23:10、ルツ記4:1、1列王記22:10）が行われた。

### 1「買い戻しの権利のある親類」とは？

→動詞כָּפַדの分詞形。中心にある意味は「買い戻す」。「贖う」とも訳される。その義務にある立場の者が買い戻しを行う。

#### ① 近親者の買い戻し

- ・経済的困窮により手放した土地を買い戻すこと（レビ25:25）

Lev. 25:25 もしあなたの兄弟が落ちぶれて、その所有地を売ったときは、買い戻しの権利のある近親者が来て、兄弟の売ったものを買い戻さなければならない。

- ・身売りして奴隷になった人を買い戻すこと

Lev. 25:48 身を売った後でも、その人には買い戻される権利がある。彼の兄弟の一人が彼を買い戻すことができる。

- ・子どもがおらずに夫に先立たれた未亡人を娶り、子を産み、先立たれた夫の名前で育て、その人の名前を残すこと

Ruth 3:13 今晚はここで過ごしなさい。朝になって、もしその人があなたに親類の役目を果たすなら、それでよいでしょう。その人に親類の役目を果たしてもらいましょう。もし、その人が親類の役目を果たすことを望まないなら、私があなただけを買い戻します。主は生きておられます。さあ、朝までお休みなさい。」

- ・殺人の血の復讐をする

Num. 35:19 血の復讐をする者（直訳「買い戻す」）は、自分でその殺人者を殺してもよい。彼に出くわしたときに、殺してもよい。

血の復讐をすることは、殺された人に最も近い親族の男性の義務であった。流血はその土地を汚すことであり（民数記35:33）、聖なる神は土地に住まわれるので（民数記35:34）、土地は汚したままではならず、清められる必要がある。それにはその血を流した者の血が必要であった。

#### ② 神の買い戻し

神と契約を結んだイスラエルはもはや他人ではない。神はイスラエルの「近親者」である。

- ・エジプトからの救出

Ex. 6:6 それゆえ、イスラエルの子らに言え。『わたしは主である。わたしはあなたがたをエジプトの苦役から導き出す。あなたがたを重い労働から救い出し、伸ばされた腕と大いなるさばきによって贖う。』

- ・バビロン捕囚からの解放

Is. 43:1 だが今、主はこう言われる。

ヤコブよ、あなたを創造した方、  
イスラエルよ、あなたを形造った方が。  
「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。  
わたしはあなたの名を呼んだ。  
あなたは、わたしのもの。

## 5 「死んだ人の名を相続地に存続させる」とは？

→「死んだ人」はルツの夫マフロン。彼の家系の名前を相続地に存続させること。

〈レビラート婚〉

Deut. 25:5 兄弟が一緒に住んでいて、そのうちの一人が死に、彼に息子がいない場合、死んだ者の妻は家族以外のほかの男に嫁いではならない。その夫の兄弟がその女のところに入り、これを妻とし、夫の兄弟としての義務を果たさなければならない。

Deut. 25:6 そして彼女が産む最初の男子が、死んだ兄弟の名を継ぎ、その名がイスラエルから消し去られないようにしなければならない。

長男が父の財産（土地など）を受け継いで守っていく責任があった。長男が子どもを残さずに死んだ場合は、次男以降が長男に代わって、長男の嫁との間に子ども（男子）をもうけ、長男の名前を残していく責任があった。このような再婚をレビラート婚と言う。レビラート婚は古代中東で広く行われていた慣習。妻が死んだ場合に夫が妻の姉妹と結婚するのはソロレート婚と言う。

〈具体例〉

Gen. 38:8 ユダはオナンに言った。「兄嫁のところに入って、義弟としての務めを果たしなさい。そして、おまえの兄のために子孫を残すようにしなさい。」

オナン（ユダの次男）は兄エルの嫁との間に子どもを残し、相続地に長兄の名前を存続させる義務があった。しかし、オナンはその務めを果たさなかった。

## 6 「自分自身の相続地を損なう」とは？

→はつきりとした意味はわからない。土地だけでなく、未亡人を養うとなると、さらに経済的な負担が増えるので、自分自身の相続地を維持できず、損なってしまうと考えたのかもしれない。

## 7 なぜ履物を脱ぐことが取引を有効にする手段となったのか？

→申命記でそのように命じられているから。

Deut. 25:7 しかし、もしその人が自分の兄弟の妻を妻としたくないなら、その兄弟の妻は、町の門の長老たちのところに行き、言わなければならない。「私の夫の兄弟は、自分の兄弟のためにその名をイスラエルのうちに残そうとはせず、夫の兄弟としての義務を私に果たそうとしません。」

Deut. 25:8 町の長老たちは彼を呼び寄せ、話さなければならない。もし彼が「私は彼女を妻としたくない」と言い張るなら、

Deut. 25:9 彼の兄弟の妻は、長老たちの目の前で彼に近寄り、その足から履き物を脱がせ、その顔に唾して、彼に答えて言わなければならない。「兄弟の家を建てない男はこのようにされる。」

Deut. 25:10 彼の名はイスラエルの中で、「履き物を脱がされた者の家」と呼ばれる。

### 11 「ラケルやレアの二人のように」とは？

→彼女たちはイスラエル人の土台を築いた12部族の生みの親。そのように、ルツもイスラエル人の土台を築いた二人のようになる祝福を祈っている。

### 12 「タマルがユダに産んだペレツの家」とは？

タマル	ルツ
長男（エル）の嫁	長男（マフロンの）の嫁
子どもが生まれず未亡人	子どもが生まれず未亡人
ユダ（義父）との間に子ども（ペレツ）	ボアズ（義父の親類）との間に子ども（オベデ）

→タマルとルツは共通点がいくつもある。おそらくタマルとルツを重ねているのだろう。タマルはユダとの間に双子の子ども（ペレツとゼラフ）を産んだが、ペレツがユダ部族の直系となる。そして、ユダ部族は最大の領土を所有する。それが「ペレツの家の祝福」なのだろう。ルツもタマルのように「ペレツ」を産み、ペレツの家系にあるボアズの家系も、イスラエルの繁栄をもたらす者となって欲しいと願われた。

## 2. ルツ記の目的～ダビデに至る系図 13-22節

### 13 もしルツに子どもがいたらどうなっていたか？

→ベツレヘムに帰還することはなく、ナオミと共にモアブにとどまり、全く別の人生を歩んでいたことだろう。ルツのある時期の不妊は長期的な視点で見ると、ボアズとの間に息子が与えられるためであり、ダビデ王家の礎を築くためであった。神の摂理。

### 14 「主がほめたたえられますように」とは？

→ベツレヘムに戻ってきた時は「まあ、ナオミではありませんか」（1:19）という驚きと彼女の不遇を嘆き悲しむ言葉でナオミは町に迎えられた。しかし、今や、主はナオミに祝福をもたらしたと町の女性たちは喜んだ。つまり、ナオミとルツの家族に起きたことは、主がなされたことだと受けとめた。

### 14 「買い戻しの権利のある者が途絶えない」とは？

→エレメレク、キルヨンとマフロンのいう買い戻しの権利のある者がみな死に、ナオミの夫の土地は誰の手にも買い戻されずに行く危機にあったが、ボアズが買い戻し、息子が生まれたことにより、その土地を嗣業する者が与えられた。

### 15 なぜルツの子どもが、ナオミを元気づけ、老後を養うのか？

→ナオミを愛するルツが産んだ子だから。つまり、ナオミのことを大切に思うルツにさらに子どもが与えられたわけだから、その子もナオミのことをきつと大切にしてくれるに違いないということか。

### 16 ナオミが子どもを養育するとは？

→義母として子どもの育児の手助けをしたということか？ナオミはある意味ではオベデを自分の子どもとして認識していたということか？17節の女性たちの発言からもそのような可能性が考えられる。

### 17 なぜ近所の人たちがルツの子どもに名前をつけたのか？

→当時の慣習か？ことわざ的な言い回しか？

### 17「オベデ」の意味は？

→「仕える者」の意味。神と人に仕える者という意か。

### 18-22 なぜペレツの系図を最後に載せたのか？

→ペレツ（ユダとタマルの子ども）の子孫にボアズがおり、ボアズの子孫にダビデがいることを示すため。ダビデの血筋を明らかにするため。

### なぜペレツなのか？ペレツよりも前に遡ることをしなかったのか？

→ペレツはゼラフと双子で生まれた。それ以前を辿っても、それはゼラフとの共通の祖先になるだけであつたからだろう。

### ダビデがボアズとルツ（異邦人）の子孫であることを示す目的・意味は何か？

→「モアブ人ルツ」と繰り返し強調されたように、ダビデにはルツという異邦人の血筋が入っていることを強調したかったからではないか。それはダビデがイスラエルだけでなく、モアブ（異邦人）をも含む王であることを強調したかったということか？事実、ダビデの時代、シリア、アンモン、モアブ、エドム、アマレク、ペリシテの領土はイスラエルに属した（地図5）。

### 3. オベデからダビデ、イエス・キリストへ マタイ1:3-6

ルツ4:18-22	マタイ1:3-6
18 これはペレツの系図である。ペレツはヘツロンを生み、	Matt. 1:3 ユダがタマルによってペレツとゼラフを生み、ペレツがヘツロンを生み、
19 ヘツロンはラムを生み、ラムはアミナダブを生み、	ヘツロンがアラムを生み、 Matt. 1:4 アラムがアミナダブを生み、
20 アミナダブはナフシオンを生み、ナフシオンはサルマを生み、	アミナダブがナフシオンを生み、ナフシオンがサルマを生み、
21 サルマはボアズを生み、ボアズはオベデを生み、	Matt. 1:5 サルマがラハブによってボアズを生み、ボアズがルツによってオベデを生み、
22 オベデはエッサイを生み、エッサイはダビデを生んだ。	オベデがエッサイを生み、 Matt. 1:6 エッサイがダビデ王を生んだ。